

60歳からの生涯学習



研修生の手作り学舎新聞

北九州市立年長者研修大学校

周望

第55号

平成27年2月1日

発行 北九州市立年長者研修大学校

周望学舎

〒803-0852 小倉北区新高田2丁目29-1

TEL 591-2626

周望学舎新聞編集委員会

プロ野球の話である。バントと言  
えば真つ先に川相昌弘氏を思い浮か  
べる人は多いと思う。犠打数五三三  
はプロ野球記録でギネスブックにも  
世界記録として認定されている。岡  
山南高校ではエースでクリーンアッ  
プの一角を担う選手として、二度甲  
子園に出場している。昭和五十八年  
にはドラフト四位で内野手として巨  
人に入団したが、いくら甲子園を経  
験したとはいえ、プロ野球選手とし  
ては小柄な彼がレギュラーを取るこ  
とは並大抵ではなかったと思う。レ  
ギュラーを取るための結論は「小技  
と守備」であった。ここから彼の努  
力が始まり、朝から夜まで人の倍の

努力を惜しむまい  
花と野菜づくりコース 仲道 弘起

練習を重ねた結果、入団から六年目  
の平成元年に二番ショートのリギュ  
ラーを得た。  
この間の練習は筆舌に尽くし難い  
ものがあつた様で、「自分でもよくや  
れたと思う。まさに野球漬けの毎日  
でした。」と語っている。平成十八年  
に現役を引退し、今は古巣巨人のヘ  
ッドコーチとして活躍している。「練  
習は不可能を可能にする」とは小泉  
信三氏の言葉であるが、この言葉を  
地でいく川相昌弘氏の野球人生であ  
ると思う。

創立35周年、魅力あふれる周望学舎に！  
周望学舎 所長 日野 俊彦

周望学舎は今年度、創立三十五周年を迎えました。  
この間、多くの方に研修を受けて利用していただき、  
全国でも珍しい年長者向けの研修施設を長く運営でき  
皆様に感謝する次第です。  
大学祭では、三十五周年を記念し、NHKの番組で  
お馴染みの講師、神田紅さんをお呼びして講演会を  
開催しました。予想通りの盛況でしたが、なせもつと沢山いれるよう  
しなかったのかとお叱りを受けました。また、三十五周年だからとい  
うことではありませんが、修学旅行の間学舎がお休みのためバスを利用  
した故宮博物院展の見学を企画しました。修学旅行でも研修生の演芸大会  
に出させていただきました。演芸大会への参加は初めてでありつたない  
ものではありましたが、なんとか皆さんに喜んでもらえたのではないかと  
思います。  
施設の老朽化も進む中ではありますが、研修生の皆さんの明るい声を  
絶やさぬようコースの内容を充実させるとともに、短期の研修について  
も興味を引くようなものを企画していきたいと思っております。

健康管理コースの四十名は、残暑  
厳しい九月の後半に皿倉山の軽登山  
に参加しました。  
皿倉山入口まで学舎バスを利用  
し、その後は天井が総ガラス張りの  
新型ケーブルカーに乗って山頂を目  
指しました。山頂駅から展望台まで  
汗を流しながら歩き、ボランティア

皿倉山への  
軽登山に参加して  
健康管理コース 弓削 エミコ

北九州で五十年  
陶芸コース 大石 公孝

私が初めて北九州を見たのは、小  
学校の修学旅行でした。  
数えきれない程の煙突、もくもく  
と出る煙、灰色の空、息苦しくなる  
ような空気が、そんな記憶があります。  
それから十年経ち、この北九州に住  
むようになろうとは...  
海が遠くに見え、空は青く澄み、  
白く泳ぐ雲、雨上がりには何色もの  
大きな虹。土手からの夕日は人の顔  
も真つ赤に染める、そんな中で子供  
時代を育つた私には大切なものを失  
つたままです。  
それから五十年近くなり北九州も  
随分綺麗になりました。  
美しい空気を吸えば心も体も元氣  
で過ごせるだろうにと思う日々で  
す。

受賞おめでとうございます

この度、周望学舎健康ボランティア会が  
福岡県社会福祉協議会表彰を受賞いたしました。

袋を手にゴミ拾いをしました。自然  
の空気を沢山吸い、心地よい汗をか  
いた後、皆で頂いた昼食もまた美味  
しくなりました。  
午後から「動植物と自然」につい  
て学んだあと、階段や坂道を一時間  
かけて歩き下山した。山頂から見た  
自分たちの住む北九州の眺めは本当  
に格別な絶景でした。  
自分自身の健康に感謝し、これか  
らも皆さんと一緒に交流していきたく  
いと思う一日でした。





# 修学旅行

～平戸の旅～



【1便】11月13日(木) 14日(金)  
 【2便】18日(火) 19日(水)  
 【3便】20日(木) 21日(金)



## 楽しかった修学旅行

修学旅行実行委員長 西村 三男  
 写真入門コース

周望学舎の三大行事のひとつである修学旅行が事故も無く終わり、事務局及び実行委員の皆様へ厚く御礼申します。参加された皆様に対し、協力ありがとうございました。平戸の旅をゆつくり観光できました。

長い歴史を感じる梅ヶ枝酒造、不幸な出来事を感じさせる無窮洞、戦後の動乱を思い出させる浦頭引揚記念平和公園、現在の日本防衛を考えさせる海上自衛隊佐世保資料館等、日常生活の中であり関心を持たない施設等を観光して意義深い時を感じました。ホテルでの宴会場(料理)、各コース別の演芸、コース代表者による歌唱大会等、熱演・熱唱・声援で時間の過ぎるのを忘れてしまいました。今後参加者が楽しめる旅行が立案できる事を望みます。

## 平和に感謝の修学旅行

一便 花と野菜のコース 永井 七子

十一月十三日は八時四十五分定刻に小倉駅北口を出発しました。

まず二二八年続く梅ヶ枝酒造の試飲で心もほころび、終戦二年前から教師と小学生達が掘った巨大防空壕(無窮洞)に胸打られた後、ハウステンボスを横目に佐世保市の浦頭引揚記念公園と資料館を見学しました。戦争の悲惨さを再確認した次第です。

ホテルに到着後、露天風呂や温泉で疲れを癒し、食後の各コースの演芸大会では盛り上がりました。

二日目、生月島内を見学した後、海上自衛隊佐世保資料館を見学。寒波到来との天気予報は外れ、楽しい二日間でしたが、我々コース諸事情で参加者が少なく、とても残念でした。多くの方が参加できるには？課題が残りました。



## 修学旅行

二便 健康のサポーターコース 小磯 道代

朝の目覚め、天気文句の付けようが御座いません。車中の人と成り、行程を熟しつつ無窮洞へ。無窮洞とは決まりが無く無限と言う意味で、凝灰岩礫岩を繰り抜いた防空壕で終戦の日まで掘ったそうです。浦頭引揚記念公園の引揚者像三体感慨深く見た方も。ホテルに着いて夕食時の宴会も楽しく終わり各室へ？二日目の行程も無事熟し小倉着。世界に目を向け開けた平戸は戦争の影も残っています。戦争は大義名分があるけれど、私利私欲の様も感じます。若い方、

先人の残した足跡を確り見極め、自分の意見の言える人に成って下さい。海上自衛隊佐世保資料館の優れた訓練映像が何時までも訓練でありますように。  
 「松杉のふところ昭和山眠る」



## 修学旅行の想い出

三便 国際情報コース 福留 純恵

三大行事の一つである修学旅行、朝から暖かい陽射しを受けて全員元気に出発しました。和気藹々の車中は会話や歌声等、途切れる事なく花が咲き目的地へ到着。見学で特に『無窮洞』は凝灰石を生徒達が懸命に掘って作り上げた事に対し、胸が熱くなった。夜は各コースの熱演や熱唱に華やかな応援で大いに盛り上がる。

二日目も小春日和に恵まれて、散策気分が素晴らしく、『大バエ灯台』では海と空が溶け合う雄大な景観を眺望する事が出来ました。帰りの車中では、窓から美しい紅葉を観たりビンゴゲームを楽しみました。この二日間を無事に終え、温泉・食事・仲間達との親睦がさらに深まり、良い思い出の修学旅行でした。

## 無窮洞と私のそのとき

一便 歴史に学ぶコース 倉重 博允

修学旅行で無窮洞に入洞した。七十年前終戦時の防空壕に刻まれた鶴嘴の跡を見て、この壕を掘った宮村国民学校の学童たちの健気な情景を思うと胸を突かれるものがあつた。

そのとき私達三十六名(十六歳)も学徒動員で山口県豊浦山地の大嶺炭坑の地底五百メートルで坑道掘進に邁進していた。鑿岩機を操り、発破をかけ、砕けた岩石をトロッコに投げ入れ、一日二十函以上がノルマで過酷な重労働の日々だった。大豆滓めしが定食で、脚気にかかり弱者が増えた。人車で坑道を出ると、天皇の終戦の詔勅はまさに青天の霹靂。その晩、女の子を誘い皆で木屋川の月夜の土手を歩いて嘆きが希望に変わって来た。

無窮洞で三つ目の竈を作らなかつたように、私達ももう二度と炭坑に入らず、岩盤に穿った十本の鑿穴を残して帰校した。

## 骨まで愛します(三)

心と身体の健康コース 瀧上 篤也

万葉集の詠み人知らずの歌に、「恋ひ恋ひて 後も逢はむと 慰もる心しなくは 生きてあらめやも」という恋歌があります。恋いこがれるだけの日々いつか逢えると言ひ聞かせ信じなければ生きられない。慕い続け、逢えずに思ひだけをつのらせる日々、でも思つていれば必ずいつか逢えると信じていなければ、どうして生きていられよう、と恋い続ける心を歌で表現しています。私は妻を五十二歳で亡くし、彼女は三十九歳で夫を亡くし、生活に迫られて還暦の歳になっていました。三十八年ぶりに再会し結ばれた私たちは、亡くなった前妻・前夫に感謝して、一日も欠かさず仏前に手を合わせます。

## 後記

今年度の周望学舎から版・新聞の編集・校正も終了いたしました。事務局並びに皆様方の御協力、御支援に心から感謝致します。 新聞編集委員一同